

令和 5 年度 秦野市食育推進委員会（書面会議）の開催結果について

1 秦野市食育推進委員会の趣旨説明（資料 1）

- (1) 本委員会は、食育基本法に基づき、食育推進計画の策定及び推進に関することを協議、検討する場として、秦野市附属機関の設置等に関する条例で、組織及び運営について必要な事項を定め、設置しています。
- (2) 委員は 15 名以内とし、食育に関わる各機関から御推薦いただいた委員と公募市民委員により構成されています。
- (3) 任期は 2 年ですが、任期内の継続が難しくなった場合には、各機関から後任委員の御推薦をお願いしています。
- (4) 本委員会は市の関係課により構成している食育推進庁内会議を踏まえて開催しています。

【質問、意見等】

「別紙：秦野市食育推進委員会における意見等の回答書」参照

2 議題

- (1) 「第 3 次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」の中間評価について（資料 2、3、参考資料 1）

本委員会の協議を経て、平成 24 年度に「はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」が策定されました。

平成 28 年と令和 3 年の 2 回の改定を経て、令和 3 年度から、「第 3 次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」が実施されています。

今年度は、令和 4 年度の評価及びプランの中間評価を行います。

ア 「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）取組状況一覧表（資料2）」

- (ア) この一覧表は関係課等の取組状況を集約したものです。全54事業となっています。
- (イ) 令和4年度は、新型感染症拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られる一方、感染症予防対策を行いながら再開する事業も一部見られました。事業の縮小や中止を行いながらも、事業内容の変更や個別対応への切り替え、紙媒体の活用、動画配信やWeb講習会等、新しい生活様式に合わせた取組みを取り入れ、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めました。
- (ウ) 【基本目標1：からだ】では、乳幼児健診や親子食育推進事業、保育園、こども園、幼稚園、学校等において家庭における食育の普及啓発等を行いました。成人の食生活の改善や高齢者のオーラルフレイルや低栄養の予防についても推進を行いました。
- (エ) 【基本目標2：こころ】では、給食やこども食堂、デイサービスでの共食や農業体験を通して食の楽しさを共有し、食に対する興味や関心を高める取組みを行いました。また、地場産物や郷土料理を給食に取り入れることや、イベントや教室等を通じて伝統行事や食文化への理解や関心を高める取組みを行いました。
- (オ) 【基本目標3：くらし】では、学校給食における地場産物利用の促進や、登録認定制度や農産物応援サポーター制度の推進を図り、地産地消を推進しました。また、幼稚園、こども園、学校やイベントを通して食と環境について考える機会の提供や、体験を推進する取組みを行いました。さらに、学校においては、食に関する指導体制充実のためのネットワークを活用して食育の推進を図りました。また、食育を担うボランティアの人材育成と活動の支援等も行いました。

【質問、意見等】

「別紙：秦野市食育推進委員会における意見等の回答書」参照

イ 「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）の目標値の達成状況（資料3）」

- (ア) 令和3年度及び4年度の達成状況について、第3次プランの中間評価を行いました。目標から遠ざかっている項目や横ばいの項目について、要因の洗い出しを行い、残りの期間で目標達成ができるよう、各課で重点的に取り組みます。
- (イ) 令和4年度達成状況では、目標を達成しているのは3項目、目標に近づいたのは4項目でした。また、ほぼ横ばいのものは5項目、目標から遠ざかったものは7項目、令和4年度に実績値の算出がなかったものが3項目となりました。
- (ウ) 新型感染症拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られますが、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めたことが評価されます。
- (エ) 【基本目標1：からだ】では、目標に近づいた項目もありますが、策定時と比較して数値が横ばい、または目標から遠ざかった項目が多くなりました。
- (オ) 指標1「朝食欠食の割合」では、朝食を食べない日がある理由（市民Webアンケート調査）において、「お腹が空いていない」に次いで、「食べる習慣がない」「食べる時間がない」が多くなっています。食習慣と生活リズムとは関連性が高く、幼児期の習慣は大人になってからの習慣の基礎となるため、幼児期からの望ましい食習慣や生活リズムを確立するための、継続した取り組みが今後必要となります。
- (カ) 【基本目標2：こころ】では、目標から遠ざかった項目が一部ありますが、策定時より改善し目標に近づいた項目もありました。感染症拡大防止対策を行いながら、新しい生活様式に合わせた取り組みが今後必要になります。
- (キ) 【基本目標3：くらし】では、目標から遠ざかった項目が一部ありますが、すでに目標を成している項目も多くあります。
- (ク) 指標1「給食食材における秦野産野菜の使用割合」については、隔年で割合を算出するため、令和4年度の実績値はありません。
- (ケ) 指標2「中学校給食の残食率」については、目標と実績値に12.

4%と大きな差があります。中学校給食は開始してわずか2年ということもあり、配膳やおかわりの方法が学校間で統一されていないことなどが、要因のひとつとして考えられます。引き続き中学校給食担当者会議等で配膳方法の情報交換を行うほか、給食だより等を通して中学生に必要な栄養量についても発信を行っていく必要があります。

【質問、意見等】

「別紙：秦野市食育推進委員会における意見等の回答書」参照

3 その他（報告）

(1) 食育通信について（参考資料2）

ア 令和5年6月に食育通信17号を発行し、保育園、こども園、幼稚園、小中学校を通じて配布しました。また、市の公共施設での配架に加え、6月の歯と口の健康週間でのフッ素塗布事業や、7月の食育講演会においても配布を行いました。さらに、市ホームページにも掲載しています。今後も定期的に食育情報を発信し、広く啓発を行っていきます。

【質問、意見等】

「別紙：秦野市食育推進委員会における意見等の回答書」参照